



## 礎を築く年に

佐渡市議会議長 猪股文彦

市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春を迎えられたことをお慶び申し上げます。さて、地方自治は、市長執行部とそれを監視と批判をする立場の市議会との「二元代表制」で成り立っています。

一島一市の合併から15年を経過しようとしており、これまでに毎年約500億円で市政運営がされてきました。この15年間で約8千億円弱であります。

市民の皆さまは、これだけ巨額の「お金」で市がどのようにして発展したとお考えでしょうか。議会の監視体制が不十分だったためか皆さまの不満が渦を巻いているように感じるのは私一人ではないと思います。

市の人口は毎年約千人ずつ減少していることから交流人口の拡大、つまり観光客の増加と親戚や友人の来島が重要な「カギ」を握っていると云えます。そのためには、佐渡の観光地としての魅力を多様なニーズに応えられるようにしなければなりません。また、島外からの佐渡汽船運賃、特にジェットフォイルの料金の値下げが必要不可欠です。

また、佐渡空港の拡張計画も急がれます。首都圏関西圏への直行便の運行は東京五輪や大阪万博の流れに遅れないためにも喫緊の課題です。

佐渡汽船も佐渡空港も県の考えですべてが決まるといっても過言ではありません。市民の将来を担う若い人たちのために、今、政治に携わる者の責任として見通しを明確にする必要があると考えます。

結びに、市民の皆さまのご多幸をお祈りし、年頭のご挨拶いたします。

## 姉妹都市から新年のご挨拶



岐阜県入間市長  
田中 龍夫

明けましておめでとうございます。佐渡市の皆さまにおかれましては、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

トキと人が共生できる自然豊かな貴市と当市が、永年にわたり姉妹都市であることを大変誇りに思います。

昨年は、相川地区姫津漁港の皆さまのご協力により、念願でありました「人間の海」事業のサザエ採り体験を企画実施していただきました。私自身も、豊かな自然と海の恵みを肌で感じました。そして、人間国宝・伊藤赤水先生の人間市訪問を機に実現した市芸展での作品展示、入間万燈まつりでの佐渡芸能披露など、幅広い両市の交流を図ることができました。

本年、市制施行15周年を迎えられる佐渡市とより絆を深め、これまで両市が培ってきた友好関係を継続してまいりたいと存じます。

結びに、貴市のますますのご発展と貴市の皆さまのご多幸とご健勝を祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。



東京都国分寺市長  
井澤 邦夫

明けましておめでとうございます。佐渡市の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年も、さまざまな形で交流を一層深めることができましたことを大変喜ばしく感じております。

昨年は、4月に国分寺駅のcocobunji(ココブンジ)プラザオープンイベントで佐渡物産展を開催いたしました。また、11月の国分寺まつりでは、姉妹都市提携30周年記念の品を交換し、両市の絆を再確認いたしました。

30年の長きにわたり友好関係を継続してこられましたのも、ひとえに佐渡市の皆さまのお心遣いのご協力の賜物と心より感謝申し上げます。引き続き、私どもも両市の関係のさらなる発展に向けて、全力で取り組んでまいりたいと考えております。

結びに、両市の関係のさらなる発展と、貴市のますますのご発展と貴市民の皆さまのご多幸とご健勝を祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。